

スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 スリーノート・パー・ストリング編 vol.02

どうも、大沼です。

今回は、前のテキストで挙げた、各スケール練習のメリット・デメリットを見ていきます。

代表的な練習法は、

- 1、縦移動(低音弦⇄高音弦)、ブロック(or ボックス)・ポジション
- 2、縦移動(低音弦⇄高音弦)、3ノート・パー・ストリング・スケール
- 3、横移動、(ローフレット⇄ハイフレット)1本弦上でのスケーリング
(※ここから派生させて2~3本弦上の範囲で行うことなども可)
- 4、1オクターブの範囲での把握

の4つ(一般的に見られる前3種と、僕が個人的に推してる最後の1種)でしたね。

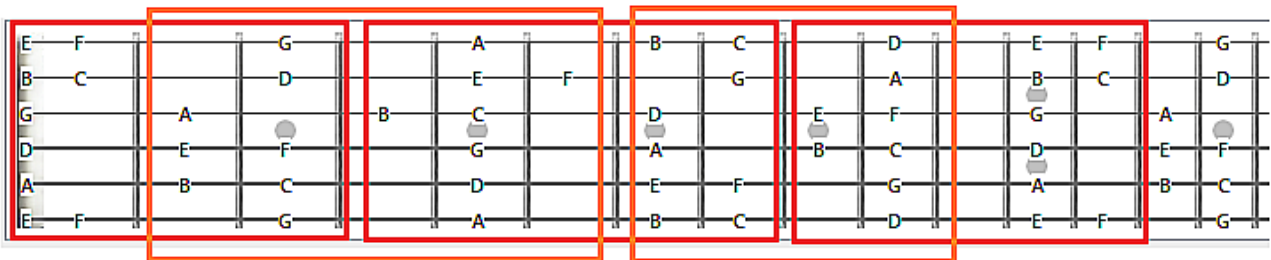
早速、それぞれ見ていきましょうか。

■1、縦移動(低音弦⇄高音弦)ブロック(ボックス)・ポジション

まずそもそも、ブロック・ポジションとは何か?についてですが、この講座では、以下の様な

『基本的にはストレッチの(ほぼ)ない、1フレット1フィンガー(4フレット間+a)の範囲で弾けるスケールポジション』

と定義します。



ちなみに、(スケールの)「ブロック・ポジション」や「ボックス・ポジション」と言った言葉が指しているものは、人や解説によって少し違ったりしますし、もしくはバークリー音大などの教育機関では、細かく明確に定義されているかもしれません。

ただ、(主に)ポピュラーミュージックで僕らが採用している音楽理論では、扱っている対象(キー、スケール、コード等)の構造が全て同じなので、意味がわかっていれば、細かい用語の違いがそこまで問題になることはありません。

なのでもし、他の媒体で、ある用語とそれが指しているものに関して、このテキストとは違う定義が出て来た時は、「その解説をしている人は、その用語でなにを示しているのか？」を確認しながら話を聞いてみてください。

僕のコンテンツでも、あまり一般の基準と乖離した内容を話すことはありませんが、モノをさらにわかりやすくするためだったり、僕が色々やってきた中で「こっちの方がわかりやすいだろう」と感じたものは、通常から少しずらした説明をしていることがあります。

では、話を戻しましょう。

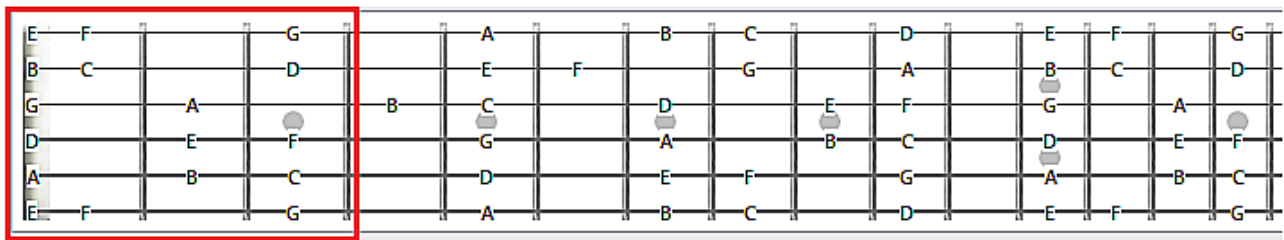
まず、このブロック・ポジションでのスケール練習のメリットは、

- 1、基本的にはストレッチが要らない
- 2、先の図のように5つのブロックを覚えるだけで、指板上でメジャースケールの構成音(=チャーチモード7種)を全て弾ける(※実は赤枠の3種だけでも全ての構成音を弾けます)
- 3、ペンタトニックスケールの主要ポジションと重なる、かなり弾きやすく把握しやすいポジションが一部ある
- 4、代表的なコード・ヴォイシングの形と、指使いも含め重なる部分が多い
- 5、代表的なコードトーン・アルペジオと重なる部分が多い

などですね。

ちなみに、先の図にまとめたポジションは、6弦にトニックを見た形でも、5弦に見た形でも、そもそもの弾く範囲は同じになります。

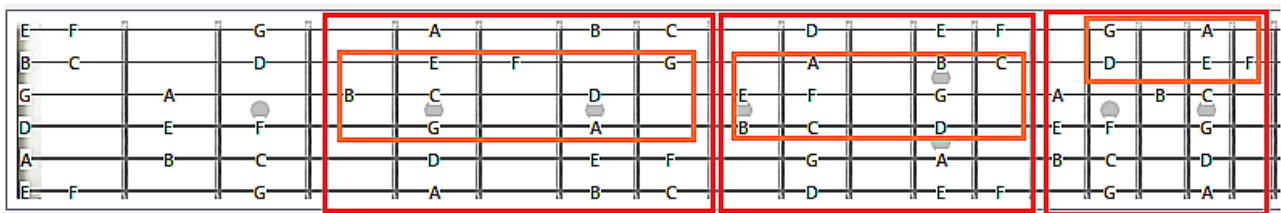
例えば、以下のポジションならば、6弦トニックでEフリジアン、Fリディアン、Gミクソリディアン、5弦トニックでAエオリアン、Cアイオニアン(※実質全てCメジャースケールと構成音が同じ)と言ったように、これら全てのスケールを弾きやすいもの(場所)として含んでいます。



(※ここは5弦トニックのBフリジアンもそれなりに見やすいですね)

逆に、デメリットとしては、

- 1、各ポジションの形に統一感が少なく、構造を比較しにくい
- 2、5つのポジションの内、3つで左手を1フレット分ずらす場所が出てくる(ここで少し構造を把握しにくくなる)



(※赤枠＝想定するポジション、黄枠＝左手が1フレットずれる場所。各ポジションを見やすくするために先の画像よりも指板を広げています)

- 3、かなり意識しないと指板上の音(ポジション)を横に移動する感覚が育ちにくい
- 4、これらの縦移動だけを見ていると、本来はスライド等を使って横に移動した方が自然になるであろうメロディ(フレーズ)が弾きにくい
- 5、ギターの構造上(チューニング)の関係で、1ヶ所だけ2音で次の弦に移る場所が出てくる(※6&1弦にそれが来る場合は2か所)

この辺りでしょうか。

これらはもう、この練習をやったことがあるならば実感しているかと思います。(※試し

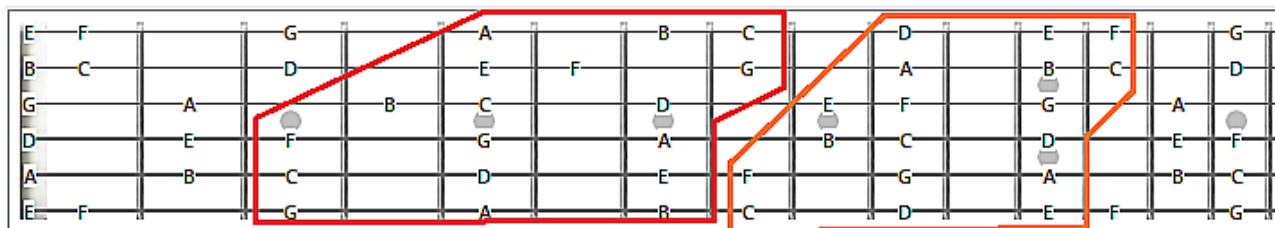
に、このテキストの図や、すでに配布した教材を参考にして弾いてみてください)

今挙げた要素の細かい部分については、他の教材でも解説していますし、実際に弾いてみればわかることでもあるので現時点では割愛させていただきます。(※後々、3nps のポジションと絡めてお話しします)

それでは続いて、3ノート・パー・ストリング・スケール(※3nps と略)の練習法について、メリット、デメリットを見てみましょう。

■2、縦移動(低音弦⇄高音弦)、3ノート・パー・ストリング・スケール

一応、改めて確認ですが3nps スケールとは、以下の様に、1本弦上で3音ずつ弾いていくパターンのことですね。



(※例、赤枠=G ミクソリディアン、黄枠=C アイオニアン、どちらも6弦トニックのポジション)

まず、この弾き方のメリットは、

- 1、全て「1本弦上で3音」という同じルールで弾いていくので、スケールごとのインターバルの違いや構造の変化を(比較的)観察しやすい
- 2、速弾き系などスピードのあるフレーズが(比較的)弾きやすい
- 3、指使いのパターンと、その組み合わせに一定の法則があり(コツを掴むと)覚えやすい
- 4、メカニカルな運指、フレーズパターンが(比較的)弾きやすい
- 5、ブロック・ポジションよりも、(少し)横移動の意識が育つ
- 6、ルート音からボディ側に展開するコードトーン・アルペジオと一致する部分が多い
などでしょうか。

逆にデメリットは、

- 1、本格的に使いこなすには、(基本的には)7つのポジション全てを覚える必要がある
- 2、場合によっては、5フレット間に広がる指のストレッチにより、フレーズが弾きにくいと感ずることがある
- 3、一般的な譜割や、スピードの遅いメロディ(フレーズ)の場合、ブロックポジションよりも弾きにくくなる場合がある
- 4、ポジション内で左手全体を横にずらす過程が、ミスに繋がる場合がある
- 5、代表的なコード・ヴォイシングとの視覚的な関連性が(少し)薄い

辺りですね。

とは言え、場合によっては、メリットデメリットが逆転することもあるかと思ひます。

例えば、

・チャーチモードにおいて、3nps で出てくるストレッチは全て同じ(5フレット間の等間隔で3音)なので逆に弾きやすい(わかりやすい)と感ずることもあると思ひますし、

・ポジションを7つ覚える、と言っても、大部分が重複しているポジションもあるので、実際は5種+ α くらいの感ず

でもあります。

こんな感ずで、わかりにくい、と感ずるようなところが逆にヒントになったりもするので、全ては、知識や体感を関連付けていくことで解決します。

こうして「メリット or デメリット」のような言い方をすると悪い部分が目立つような気もしますが、実際のところ、ギターと言う楽器は非常によく出来ていて、構造を把握できしまえば、最終的には、良いも悪いもそこまで感ずなくなりますので。

と、ということで、思ったよりも長くなってしまったので、今回はここまでにしておきましよう。

ここまでの解説で、今までの練習とは少し違った視点を持てる人もいます。

新たに気が付いたことがあれば、そこに注意しながら、改めて弾いてみてください。

残りの練習法3と4は、引き続き、解説していきます。

それでは、また次回。

ありがとうございました。

大沼